

山行報告書

報告書作成

2009. 8. 30.

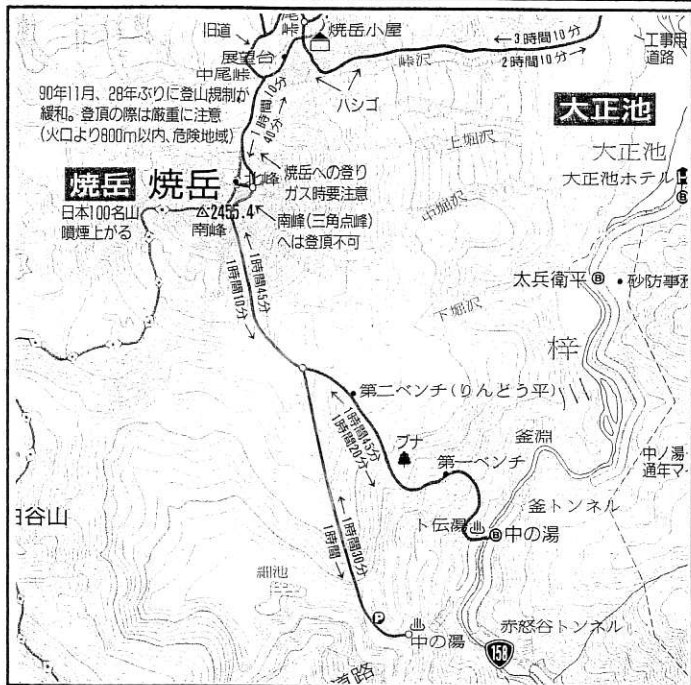
山名 [山域]	焼岳, 西穂高岳	目的と方法	山を楽しむ
登山期間	2009. 8. 22(土), 8. 23(日)	山行形態	ヒストン
参加人数	1名		

行動記録

8/22(土) 焼岳新中の湯登山口 $\xleftrightarrow{9:01発}$ $\xleftrightarrow{10:50通過}$ 中の湯登山口分岐 $\xleftrightarrow{12:20着}$ 焼岳北峰 $\xleftrightarrow{12:48発}$

8/23(日) 鍋平高原駐車場 $\xrightarrow{5:28発}$ $\xrightarrow{6:23通過}$ 10ノラマエ分岐 $\xrightarrow{8:52着}$ 千石尾根 $\xrightarrow{9:59着}$ 西穂高口 $\xrightarrow{11:25着}$ 西穂山荘 $\xrightarrow{12:40着}$ 西穂独標 $\xrightarrow{12:40着}$ 西穂高岳 $\xrightarrow{13:03発}$

2-70ヤエ



日誌

8/22(土): 新中の湯登山口駐車場とその下のカーブには既に車かまわっており、中の湯のすぐ上のカーブに駐車して出発。明け方の雨か曇りの様で快晴となり暑い。苔むしい樹林帯の道を1時間少々歩くといよいよ焼岳が眼下に臨む。ここから絶好の展望場所があるが明け方の雨のせいで田圃状態である。ここからはほほおつと沢を眺めながらの登山道である。下山後の風景は新中の湯からは女性露天風呂からは標高の山並みが見え、このときで沢渡まで下りた。

8/23(日): 鍋平高原駐車場(有料駐車場)の下に無料駐車場あり)からしばらく車道を歩き(10ノラマエ)途中に車道と分かれ登山道に入る。釜2-70ヤエの2本目の鉄塔付近で千石尾根に入り、2-70ヤエのカーブを離れ千石尾根を登る。西穂独標と西穂高岳の間は2-70ヤエは多々か岩は少かりに降り、2-70ヤエのカーブを登ると曇りか曇りか。先降の雨は雨でぬれると濡りそうである。帰りは2-70ヤエに乗り下り新穂高2-70ヤエはJAF会員証で1割引)

感想

天候の良い日、展望の良い山の登るの最高! である